

ゆりのき通信

No.40
2024.8



正門 ～ゆりのき並木～



創立80周年記念イベント



落葉松祭

会長挨拶

信州大学農学部同窓会会員の皆さまにおかれましては、益々活躍のこととお慶び申し上げます。

信州大学農学部は、1945年（昭和20年）に長野県立農林専門学校を創立の起点とし、1949年（昭和24年）に国立信州大学となり、2003年（平成15年）から国立大学法人信州大学として、現在に至っております。そして令和7年度に80周年を迎えます。

新型コロナウイルスの影響で、大学の講義、実習、クラブ活動など、人と人との交わりが一段と薄くなったように感じます。こうした状況を踏まえ、大学の活性化や在学生と同窓生との交流機会を増やすために、今年の5月18日に農学部創立80周年記念イベントとして、「地域と連携する農学部～伊那谷の歴史に関わり発展に寄与する研究～」を開催しました。地元の高校生ならびに多くの卒業生が遠方からも来学し、お陰様で盛会のうちに終了することができました。

来年は、80周年記念事業を本格的に計画しております。創立60周年の際には「写真でつづる農学部60年史」を発行しましたが、あれから20年が経ちました。80周年記念では「農学部80年の歩み」（仮題、写真集）を発行する予定です。記念事業の一環として、記念式典やシンポジウム、在学生と同窓生が交流できるホームカミングデーなどを企画しております。学生時代を思い出して、ぜひ親しい友人をお誘いあわせの上、ご参加ください。

ここで、信州大学に関するピックアップを紹介しておきます。令和5年12月、信州大学が文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に、信州大学が提案した「水・

農学部同窓会長
辻井 弘忠（畜S43）



エネルギー共創研究センター」（松本キャンパス内）が採択され、大型予算が付きまして。国立22、公立2、私立6の計30大学の内の一つに選ばれております。この提案は、本学が世界トップクラスの実績を持つ、水の浄化や水由来の水素エネルギー関連の先鋭材料研究を核に、研究の卓越性、イノベーション創出、地域貢献を一体推進するものです。

農学部同窓会の運営についてですが、同窓会費の納入率が年々減少しており、運営が厳しくなっております。この秋から郵便料金の値上げが予告されております。今回の「ゆりのき通信」40号は、郵便料金の値上げ前に繰り上げて発行いたしました。これからの同窓会の運営を考えると、経費をできるだけ削減することが鉄則ですので、「ゆりのき通信」を紙媒体からインターネットによるホームページでの発行に切り替えたいと考えております。令和7年の「ゆりのき通信」41号は、最後の紙面版とインターネット版の両方で発行する予定です。インターネットにあまり馴染みのない方にはご不便をおかけしますが、少しずつ慣れていただきたいと思います。

ゆりのき通信の送付が、なくなった後は同窓会のホームページが皆様と同窓会とをつなぐ唯一の手段です。また、同窓会の運営や連絡を円滑に進めるために、皆さまとの連絡手段を強化することが重要です。今後は、皆様と同窓会はホームページ、メールなどITを通して意思疎通を計りたいと思っております。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご活躍と健康をお祈りしております。

J-PEAKS 研究大学群における 信州大学農学部の存在意義

学長
中村 宗一郎



農学部同窓生の皆さまにおかれましては、お健やかに過ごされていることと存じます。

さて、早速ですが、この機会を利用して、信州大学の状況を皆さまと共有できればと思います。ご存知のように、信州大学はグレーター・ユニバーシティ・ビジョン、Vision for Greater Shinshu University、VGSUという大変大きな志を掲げています。これは多様な学問分野、業界、世代、そして地域社会に分散している「人」や「知」を結集、共有、活用することで、新たな価値を創出し、地域の発展に貢献するエコシステムの構築を目指すものです。本学は、大学の使命である教育、研究、そして社会貢献における本学の特色や強みを

伸ばし、地域の社会課題を解決するための「知」を豊富に揃えることを目指しています。VGSUでは、地域の活性化に貢献するため、「Extend（伸ばす）」、「Expand（広げる）」、「Enrich（豊かにする）」という三つの「E」をキーワードに掲げています。これは本学の価値創造のステップでもあり、地域の発展をけん引し、豊かな社会とより良い未来を創ることを意味します。VGSUに先立ち、本学は「大学改革実行プラン inGEAR：inGenious, Enterprising and Actionable Regional revitalization」を策定し、地域中核・特色ある研究大学としての目指す姿を定めています。inGEARに加えて、新しい行動指針ともいえるべきVGSUを掲げることができましたので、

地域の大学としての存在感は、今後より一層高まるものと期待されます。その証左として、昨年、本学は、地域中核・特色ある研究大学 J-PEAKS、12 大学の 1 つに選定されました。J-PEAKS は、大学ファンドによる国際卓越研究大学と対をなすものと目されているものです。この枠組みに認定された大学には、日本全体の研究アクティビティを強化・向上させ、世界における日本のプレゼンスを高めることに加え、革新的な価値創造のフロントランナーとしての使命を果たすことが期待されています。「この研究分野ならこの大学」ということで、本学の「水及び水由来グリーン水素」に関する研究実績が評価されました。

信州大学には、今、水の惑星地球における「水のサステナビリティ」の維持向上という重要な任務が課せられています。これには、水の高度循環や革新的な水素生成技術を含む水資源の高度利用の分野において先導的な役割を果たすこ

とが含まれます。J-PEAKS 研究大学群の一員となった信州大学に対する社会からの期待には、極めて大きなものがあります。サステナビリティ・トランスフォーメーションが声高に叫ばれている今日、農学の学問分野はますます重要になってくるものと確信しています。今こそ、農学の存在価値、真価が問われているのだと思われます。おりしも、2025 年には、信州大学農学部創立 80 周年という節目を迎えます。今年は、記念すべきイベントやプログラムが数多く予定されていると伺っています。これらは農学部同窓会の絆をさらに強固なものにし、共に新しい道を切り拓く絶好の機会となるでしょう。私たちは今、新たなマイルストーンを打ち立てようとしています。農学部の伝統に新たな章が刻まれ、未来への一歩が確かに踏み出されることを、心から願っております。また、農学部同窓会の皆さまお一人おひとりのご健勝と知的躍動を心よりご祈念申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

学部長挨拶

農学部長
米倉 真一



農学部長を務めております米倉真一と申します。農学部同窓会の皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。また、日頃より農学部の教育・研究にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、5 月に新型コロナウイルス感染症が「5 類」に移行するなど、3 年余り続いたコロナ渦がようやく収束し、大学もほぼ日常を取り戻したように思います。昨年 10 月には久しぶりに「落葉松祭」も開催され、学生の息吹を感じることができました。また、卒業式も、コロナ渦では学部卒業生と大学院修了生が別々の教室に参加する形で実施していましたが、3 月の卒業式では、コロナ前と同様、30 番講義室に卒業生・修了生全員が参加して挙行することが出来ました。アフターコロナとなり、改めて、対面交流の大切さを認識することが出来たと思います。今年度は、学生の縦と横の対面交流、学生と教職員との対面交流を推進していきたいと考えております。

さて、ご承知のように、1945 年（昭和 20 年）2 月、専門学校令により長野県にも県立の農林専門学校の設立が認可され、1949（昭和 24）年制定の「国立学校設置法」によって新制大学が誕生する際、この農林専門学校が現在の信州大学農学部の母体となりました。したがって、来年、信州大学

農学部は“創立”80 周年を迎えることになります。卒業生は、農林関係はもとより、広く官界、産業界、学界において活躍されており、これまでの卒業・修了生は約 1 万名にも及びます。大学という高等教育機関において、卒業生こそが大きな財産であり、益々、同窓生の方との連携が重要になると考えております。そのような考えの中、昨年、農学部教職員および同窓会会員から構成される「信州大学農学部及び信州大学農学部同窓会の連携に関する合同推進委員会」を設置しました。この合同推進委員会では、信州大学農学部と同窓会が発展的に連携するための企画等を、継続的に検討・実施することを目的としております。現在、来年 10 月に開催予定の「信州大学農学部 80 周年記念式典」の企画と準備を進めているところでございます。

この 80 周年を契機に、ホームカミングデー等を企画し、卒業生の方がいつでも母校へ戻り、集える環境も整備していきたいと考えております。その際は、同窓会の皆様のご協力を賜る必要がございますので、ご助言等頂ければ幸いです。今後とも引き続き、農学部に対して温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、卒業生・修了生の皆様のご健勝と今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

信州大学農学部のように、公式 SNS で見る您可以通过。
素敵な写真や動画を投稿しています。ぜひフォローしてください。

●信州大学農学部
Instagram



●信州大学農学部
Facebook



●信州大学農学部
生産品直売所 X



●信州大学農学部
演習林 Instagram



伊那で頑張っている卒業生

パン ちゃるら 長谷

古川 浩二 (化H2)

まず、この度はゆりのき通信への寄稿の機会を頂いたことに感謝いたします。

私は信大農学部を卒業後、そのまま大学院に進学しましたので、平成4年春に就職するまで伊那には5年間生活していました。当時は、日本がバブル景気で苦勞せずに就職でき、しかも企業から返済不要の奨学金が支給される制度まであり、何とも恵まれた時代でした。就職先は化学系メーカーで、アクリル樹脂の研究開発、生産管理の技術者として約30年勤めました。しかし、約2年半前に早期退職にて辞め、パン屋になろうと決心しパン屋でパートや修行見習いをしながら拠点を探していました。当初は自宅のある愛知県豊橋市の近郊で探していたのですが理想の物件が見つからず、伊那谷まで範囲を広げ、運よく今住んでいる長谷の古民家に巡り合えました。学生の頃には、時々長谷を訪れていたのが移住への不安もさほどなく、また集落の皆さんも歓迎して頂きました。余談ですが、あと2年もすれば還暦となりますが、集落の中では下から二番目の若造です。

そして23年の春から移り住み、愛車を軽トラックに乗り換え、約1年かけて古民家を自らリフォームし、パン屋をオープンすることが出来ました。



ここまで書くと、順調なセカンドライフを始めたように思われるかもしれませんが、実は、会社を辞めるまでパンを自分で焼いたことなど全くなく、またパンが大好きな訳でもありませんでした。自営で始めるならパン屋が良さそうかな？1年ほど製菓学校に通えば何とかなるかな？くらいの知識しかありませんでした。なので、会社を辞めた後

にパン屋開業に関する情報を集め、現実を知る羽目になりました。まずは経験を積むためにパン屋で働こうと思いましたが、中年未経験のオヤジを雇ってくれる店はなく、やっと見つけたパートでは、掃除と片付け、レジ打ちなどが主務でした。お店を持つなど夢なのかと思っていたところ、同じように異業種からパン屋を自力で開業された方に巡り合い、最初は門前払いでしたが半年間通い続け、何とか頼み込んで半年の修行をさせて頂きました。



私のパンは、国内産小麦と自家製酵母を使用し、これを自作の薪窯で焼き上げます。これらは前述の師匠譲り、自分の拘りではなくこの方法しか知らないのです。

さて、パン屋を営むなら長谷ではなく、伊那や高遠の街中のほうが集客に適しているのは確かです。雨や雪が降れば、長谷の山奥までパンを買いに来るお客さんはごくわずか、その日から売れ残りのパンをひたすら食べ続ける日々が始まります。



私のパン屋は、単にパンを売るのではなく、日頃の多忙な生活から少し抜け出し、のんびり、ゆったりとした時間を過ごしていただくこと、心のリフレッシュができる空間を提供することを目指したお店です。店内には休憩スペースを設け、心地よいBGMを流しています。屋外に休憩用のハンモックも設置済み。次は足湯かサウナが良いかと夢を見ている。

悠々自適のセカンドライフを夢みている方、どうぞお越しください。楽しく厳しい現実をお話ししますよ。

同窓生の著作紹介

▼藏之内利和さん(園S59)
『根つこのふしぎな世界第1巻 根っこつてなんだらう?』文研出版、2023年(参加)

▼伊藤俊康さん(化S47)
『ピタゴラスの定理の扉を開く…組合せ・散布図・数列・素数』(東京図書出版、2023年)

▼小島理恵さん(森H6)
『はじめてのオーガニックな庭づくり』(家の光協会、2023年)

▼四井真治さん(森H9)
『地球再生型生活記』(KIT中央出版、2023年)

▼近藤幸夫さん(林S59)
『ライチョウ、翔んだ。』(集英社インターナショナル、2024年)

※同窓生の著者(概ね最近5年間のうちに発行されたもの)がありましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

ホームカミングデー

令和6年10月19日(土)に開催予定。詳しくは、ホームページをご覧ください。

このたびの、能登半島地震および台風・豪雨などの自然災害により、被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

人生の転換期

渡邊 毅哉(食H27)

信州大学農学部食料生産科学科を卒業して、はや9年が経ちました。私の出身は静岡県ですが、なぜ信州大学の農学部を志望し入学したのか、当時を振り返ってみると、特に第一志望としていたわけではなく、ただ漠然と動物や生態について学びたいという思いでいたところ、たまたま高校の担任の先生に紹介を受けたことがきっかけでした。農学部では河原岳志先生のもとで、生体の不都合な応答によって生じるアレルギーや炎症性疾患の症状を緩和できるような機能性食品素材の探索を行っていました。私はその中でも酵母菌による抗アレルギー作用について、マウスを用いて研究していました。動物にも関わることができ、生態も学べる非常に面白い研究であり、本学部に入學して良かったと感じていたのを覚えています。

大学卒業後は民間の食品会社へと就職し、転勤のために転々とした生活をしておりました。そのような生活の中で子どもにも恵まれ、いつかは自然に囲まれた環境下で、のびのび生活をしたいという思いが生まれ、その思いは次第に強くなっていきました。私の出身は静岡県ですが、妻は長野県出身であり、また、大学時代に生活圏となっていた伊那市に住みたいという思いが芽生え、伊那市役所に応募したところ内定をいただくことができ転職することにいたしました。実際に子どもとともに住んでみると自然の豊か

さを改めて実感し、大自然の中で楽しく生活をしております。

さて、転職先の伊那市役所では何をしているかと申しますと、現在は子育て支援課に勤めております。子育て支援課というと保育園への入園手続きであるとか、児童手当の交付であるとか、その辺りをご想像されるかと思いますが(私はそうでした笑)、保育園の施設に関する業務(園舎の営繕や管理等)を担当しております。前職での経験や大学で学んだ知識はほとんど生かせない職種ではありますが、何とか毎日を乗り越えております。

市役所の仕事は多岐にわたりますので、全く知らない業務が振られることもあります。そのような中では他部署への相談や連携が必要になりますが、その際に相談する相手も信州大学卒という共通点があることで、自然と打ち解けやすくなり、仕事の相談もしやすくなっています。(実際によく相談に乗っていただく他部署の方が信州大学卒です。)また、同期の中にも1人信州大学卒がおりますので、たまにお酒を飲みながら仕事について語り合うこともあります。信州大学卒と聞くとすぐに打ち解けられそうな気がするのには私だけではないのではないのでしょうか(笑)。

市役所という仕事上、ある種転職のような全く知見のない部署に異動になることもあるかと思えます。どの部署に異動になったとしても市の職員として真摯に業務に取り組みたいと思います。また、自然あふれる伊那市で公私ともに充実した生活を送っていききたいと思っております。

農学部コース再編のお知らせ(令和7年4月～)

令和7年4月より、信州大学農学部はこれまでの4コースを、3コース+1特別コースにコース再編します。



信州の地から、農学の未来を創る

令和7年4月 特別コース始動

分野横断型の教育を強化 ● 課題解決型学習(PBL)を推進

令和7年4月～
1学科4コース
1学科3コース・1特別コース

● 生命・食品科学コース
● 食料生産システム科学コース
● 山岳園森林・環境共生学コース

地域協創 特別コース

● 生命機能科学コース
● 動物資源生命科学コース
● 植物資源科学コース
● 森林・環境共生学コース

信州大学 農学部
SHINSHU UNIVERSITY

詳細は、信州大学農学部ホームページをご覧ください。

大学史資料センターから 資料収集へのご協力をお願い

信州大学では2017年に「信州大学大学史資料センター」を設置し、本学に関する資料の収集・整理・保存を進めており、農学部からは300点を超える資料をご寄贈いただいております。資料をご提供いただけます方は、ぜひ情報を大学史資料センターにお寄せください。

お問合わせ・連絡先

信州大学 大学史資料センター
〒390-8621 松本市旭3-1-1
TEL: 0263-37-3531 FAX: 0263-37-3532
MAIL: archives@shinshu-u.ac.jp
※ 展示の様子など、大学史資料センターのウェブサイトもご覧ください。



◆◆◆ 令和5年度 ゆりのき賞 受賞者一覧 ◆◆◆

4年生における学業成績が優秀であるもの

コース	氏 名
生命機能科学コース	櫻井 杏実 田郡 穂佳
動物資源生命科学コース	位田 宗一郎 遠藤 アリまり
植物資源科学コース	中野 日陽 星野 琴美
森林・環境共生学コース	木村 温 神江 真衣